

4月26日 JAはまゆうが旬のマンゴー贈呈

宮崎県のブランド果実であるマンゴーをPRしようと、JAはまゆう果樹部会亜熱帯果樹専門部は市長へ最高品質である「太陽のタマゴ」と完熟マンゴーを贈呈しました。市内の生産農家である鬼塚誠さん、新垣雄大さんが市役所を訪問し市長に手渡しました。試食した市長は「風味がよく甘くておいしい。贈答用に最適。さらに生産を頑張ってもらいたい」と述べ、旬の味覚を堪能しました。鬼塚さんは「天候に恵まれ今年は品質が特に良い。市長にはPRをぜひお願いしたい」と話していました。今年の出荷は5月末から6月末にかけてピークを迎えます。



マンゴーを贈呈した鬼塚さん（中央左）と新垣さん（右）、JAはまゆう職員の金丸さん（左）

4月25日 4月26日 希望の炎をつなぐー東京五輪聖火リレー



沿道から温かい拍手を受け聖火をつないでいました

東京五輪の聖火リレーが4月25日から2日間にかけて宮崎県内で行われました。聖火は高千穂町を皮切りに各市町を巡り、最終地であるえびの市に到着。181人のランナーが希望の炎をつなぎ鹿児島県に引き継がれました。26日は本市でもリレーが行われ、市総合運動公園から寺里交差点までの15区間を、本市在住のランナーらは沿道からの温かい拍手を受けながら聖火をつないでいました。



聖火リレー前のミニセレブレーションは福島高校胡桃太鼓部の演奏や市長からランナーにトーチ点火などがありました

本市在住ランナー



はまだ 濱田 ヤスヨさん

数年前の乳がん検診で精密検査まで受け結果良性だったのですが、改めて自分の人生を考えるようになり「人生一度きり。いろいろ挑戦して悔いのない人生を送ろう」という思いが芽生え今回ランナーに応募しました。第1走者ということで非常に緊張しましたが、無事走りきることができホッとしました。



おはら 小原 文夫さん

走ることが大好きで現在もほぼ毎日ジョギングをしています。また、日本陸連公認審判員の資格を持っており、これまで20年ほど県内の各陸上大会で審判員を務めてきました。今回はその集大成として走らせてもらいました。良い天気にも恵まれて気持ち良く走ることができました。

4月20日 海北地区を地域の安全・安心活動推進などに関するモデル地区に指定



指定書の交付を受けた海北地区自治会の児玉会長（中央）

本市、串間地区防犯協会および串間警察署は、市木海北地区自治会に「地域の安全・安心活動推進モデル地区」の指定書を交付しました。指定期間は2年間で、地区内のパトロールや高齢者宅への訪問のほか、のぼり旗設置などによる防犯啓発活動を行います。交付を受けた同自治会の児玉祥吉会長は「地域の防犯のため、さらに高齢者への見守り活動などに協力していきたい」と話していました。同自治会は同日、同署から「うそ電話詐欺被害防止推進モデル地区」にも指定されました。

4月21日 第一生命と健康増進やSDGsの推進などで連携

本市は第一生命保険株式会社と包括連携協定を締結しました。同社の全国に広がるネットワークを最大限に活用し、健康増進やSDGsの推進など14部門で連携して地域課題の解決などを目指します。締結式には、同社宮崎支社の小谷彰支社長が出席し協定書に署名。小谷支社長は「連携して串間の課題解決に向けてより一層尽力していきたい」とあいさつされました。今後、高齢者の見守り支援やSDGsの取り組みに関する情報発信、「くしまエコツーリズム」の県内外へのPR活動などに連携して取り組んでいきます。



女性の活躍推進や環境保全などでも連携していきます

4月23日 産業資源協会、環境保全連合会と災害時におけるごみ処理やし尿収集で連携



協定を締結した同協会の田村会長（左）と同連合会の石川会長（右）

本市は災害時に廃棄物などを迅速に処理するため、県産業資源循環協会、県環境保全事業連合会と協定を締結しました。協定に基づき、同協会とは災害時に発生する廃棄物の撤去、収集と運搬など、同連合会とは災害時のし尿収集に必要な車両や人員の提供などで連携。市総合保健福祉センターで行われた締結式には、同協会の田村努会長、同連合会の石川武則会長らが出席。田村会長は「迅速かつ効率的に最大限の協力をしていきたい」、石川会長は「市民の生活に影響を与えないよう最大限の取り組みを行っていきたい」と話していました。